

情報通信審議会 情報通信技術分科会
IP ネットワーク設備委員会（第 78 回）議事録

1 日時

令和 6 年 8 月 5 日(月) 14:00～15:51

2 場所

WEB上で開催

3 出席者(敬称略)

(1) 委員会構成員

相田 仁(主査)、江崎 浩、森川 博之、内田 真人、田中 絵麻、矢入 郁子、
矢守 恭子、宮田 純子、朝枝 仁、石井 義則、岩田 秀行、武居 孝

(2) オブザーバ

山本 一晴(一般社団法人電気通信事業者協会)、
佐子山 浩二(一般社団法人テレコムサービス協会)、
木村 孝(一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会)、
小林 直樹(一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟)、
雨宮 明(一般社団法人日本 CATV 技術協会)、大許 賢一(日本電信電話株式会社)、
清水 和人(株式会社 NTT ドコモ)、小坂 啓輔(KDDI 株式会社)、
杉本 篤史(ソフトバンク株式会社)、加納 大三(楽天モバイル株式会社)

(3) 事業者説明における発表者

田中 英二(東日本電信電話株式会社)、秋山 大(西日本電信電話株式会社)、
竹内 宏司(株式会社 NTT ドコモ)、水田 秀之(KDDI 株式会社)、
杉本 篤史(ソフトバンク株式会社)、磯邊 直志(楽天モバイル株式会社)

(4) 総務省

大村 真一(電気通信事業部長)、五十嵐 大和(電気通信技術システム課長)、
大塚 康裕(安全・信頼性対策課長)、柴田 輝之(電気通信技術システム課企画官)、
吉田 丈夫(電気通信技術システム課課長補佐)、
野田 俊太郎(安全・信頼性対策課課長補佐)

4 議事

(1) 令和 6 年能登半島地震に対する取組と今後の課題について

- ・事務局(野田課長補佐)及び各事業者より、資料 78-1 から資料 78-7 に基づき、令和 6 年能登半島地震に対する取組と今後の課題について説明がなされた。説明終了後、質疑応答を行った。質疑応答の様子は以下のとおり。

【矢入構成員】

楽天モバイルからの説明に関し、MIMO の構成変更によるパワーセーブにより、基地局のバッテリーを延命することについては、自動で行っているのか。

【楽天モバイル】

台風であれば経路を予測して予め変更を行う事もあるが、地震は予測ができない関係上、バッテリー稼働となったのを確認した後、手動で MIMO の構成変更を行う。

【森川構成員】

能登半島地震では情報通信インフラに対する期待は以前の東日本大震災のものとは異なり、本当の意味でライフラインになったと実感。情報通信インフラを取り巻く環境が変りつつあるなか、ライフラインである通信を守るため、人材の確保や技術の維持を含めて考えるフェーズとなった。通信事業者の皆様も既にご検討いただいていると思うが国としても何ができるかを考えていきたい。

【石井構成員】

本格復旧について、故障した機材の早急な確保に当たり準備していることや、メーカーに対する要望等があればご教示いただきたい。

【ソフトバンク】

本格復旧に向けての機器の確保について、災害に限らず各事業者は平時の修理用に一定の予備品を備えており、災害時は、それを用いて復旧を行う。能登半島地震においては土砂崩れが多く、道路が直らないと電柱が復旧できない等のケースが多々あった。本格復旧については、道路等他のインフラの復旧も大事だと感じる。

【相田主査】

NTT 西日本資料 P.7 について、地下のケーブルが切れると有線の復旧は時間かかるなかで、ワイヤレス固定は応急復旧における有効手段となり得るのか。

【NTT 西日本】

能登半島地震でもあったように携帯電話基地局向けのケーブルが切れてしまうと、ワイヤレス固定でも復旧は厳しくなる。一方で携帯電話の基地局と同様に、一本の線が復旧することにより多数使えるようになるため、早期復旧の可能性が高まる。地震当時、ワイヤレス固定は未提供だったが、現在は提供できるようになっており、条件に合致できれば有効な手段となり得る。

【宮田構成員】

各社の説明を聞く中で、ソフトバンクや NTT 東西においてシェアリングをして良かった

話を聞いたが、今後うまく活用するため事前に取り組む方針等があればご教示いただきたい。

【ソフトバンク】

今回、タンクローリーから仮設給油所に繋ぎ電源車等に給油を行った。これを行うには土地が必要。今後、自治体はもちろん、各社にてベースキャンプの情報を共有しあえると各々で探す必要がなくなるため、そういった情報の共有ができればと思う。

【NTT 西日本】

残念ながら今回シェアリングは実施していないが、利用者目線でも重要であることは認識している。シェアリングにおいて準備はもちろんルール決めも大事だと思う。平時からの情報交換に加え、机上だけではなく訓練を行い、運用に対する理解を深めることが大事。

【NTT 東日本】

各社と同じく、事前のデータのシェアリングやルール決めが大事と認識している。

(2) 非常時における携帯電話サービスの事業者間ローミング等に関する検討について

- ・事務局（吉田課長補佐）より、資料 78-8 に基づき、非常時における携帯電話サービスの事業者間ローミング等に関する検討について説明がなされた。その結果、当委員会の下に「非常時における事業者間ローミング等に関する検討作業班」（主任：相田先生）及び「検討作業班端末等タスクグループ」（主任：藤井先生）を設置して詳細な検討を進めることについて、案のとおり承認された。

(3) その他

- ・事務局（野田課長補佐）より、今後の予定等について説明があった。

（以上）